



RoomOS 11.24

Cisco Board と Desk シリーズ ユーザーガイド

このユーザーガイドの内容

はじめに

Cisco Board Pro G2	4
Cisco Board Pro	5
Cisco Board	6
Cisco Desk Pro	7
Cisco Desk	8
Cisco Desk Mini	9
RoomOS 11: 基本的なナビゲーション	10
Bluetooth® とのペアリング	11
ヘッドセット (Desk シリーズ, Board Pro)	12
USB カメラとして使用する (Desk Pro, Desk)	13
自分の資格情報を使用してサインインする	14

ビデオ通話

RoomOS 11: 通話制御	16
音声設定	17
連絡先リストから発信する	18
発信する前に連絡先を編集する	19
名前、番号、またはアドレスを使用して発信する	20
着信コール	21
別のコール中にコールを受信する	22
通話から自身を切断する	23
コールを保留にし、保留中のコールを再開する	24
継続中のコールを転送する	25
コールレート(帯域)を変更する	26
すべてのコールの自動転送	28
通話中にキーパッドを開く	29
継続中の通話に参加者を追加する	30
電話会議から参加者を切断する	31
参加者をミーティングに許可する	32
ミーティングでスピーカーを固定する	33
ミーティングで挙手する	34
最近の通話の通話詳細を検索する	35

Cisco プロキシミティ設定

Cisco Proximity の超音波信号	37
------------------------------	----

コンテンツ共有

ケーブルでコンテンツを共有する	39
Webex アプリでコンテンツを共有する	40
Miracast® でコンテンツを共有する	41
Airplay® でコンテンツを共有する	42
通話中に画面のレイアウトを変更する	43
ホワイトボード機能	44
セッションを終了してデバイスをクリアする	45
共有コンテンツに注釈を付ける	46
注釈または描画をメールで送信する	47
有線タッチのリダイレクト	48
Web アプリ	49

スケジュールされたミーティング

スケジュールされたミーティングに参加する	51
Webex ミーティングに参加する	52
サードパーティのミーティングに参加する	53

連絡先

お気に入り、発着信履歴、ディレクトリ	55
通話中に誰かをお気に入りに追加する	56
非通話時に誰かをお気に入りに追加する	57
お気に入りを編集する	58

カメラ制御

カメラのオンとオフを切り替える	60
通話中または通話中でないときにセルフビューに アクセスして調整する	61
セルフビューを移動する	62
仮想背景 (Desk シリーズ)	63
カメラを手動で制御する	64
自動カメラモードを選択する (Board シリーズ)	65
遠端カメラ制御	66

設定

コントロールパネルとデバイス設定	68
------------------------	----

目次の項目はすべてハイパーリンクになっており、このハイパーリンクをクリックすると、対応する項に移動することができます。チャプター間を移動するには、サイドバーのアイコンをクリックします。

このガイドでは、Cisco Board シリーズ (Board Pro, Board) および Cisco Desk シリーズ (Desk Pro, Desk, および Desk Mini) をオンプレミスサービスに登録する方法について説明します。特定の機能がすべてではなく 1 つのシリーズまたはデバイスに適用される場合、適用可能なシリーズまたはデバイスが記載されます。

Cisco Board は、スタンドアロンデバイスとして使用することも、Touch 10 または Room Navigator で制御することもできます。このガイドは、Boards をスタンドアロンデバイスとして使用する場合について説明しています。

Board でタッチコントローラを使用している場合は、『Cisco Room Series ユーザーガイド』の「タッチコントローラの機能」を参照してください。

注: このユーザーガイドで説明されている機能の一部は、特定の市場ではオプションである場合があります。お使いのデバイスに適用されない場合があります。



はじめに

はじめに

Cisco Board Pro G2

オールインワンデバイスには、4K カメラ、内蔵マイクとスピーカー、および高解像度 4K タッチスクリーンが搭載されています。フロアスタンド、ホイールベース、壁取り付けの 3 つの取り付けオプションがあります。

Board Pro G2 には 55 インチと 75 インチの 2 つの画面サイズがあります。

Board Pro G2 コネクタパネルの詳細については、管理ガイドを参照してください。



- ① カメラ
- ② スピーカー（画面下部）
- ③ マグネット式ペンホルダー（両側）
- ④ コネクタパネル（後部）

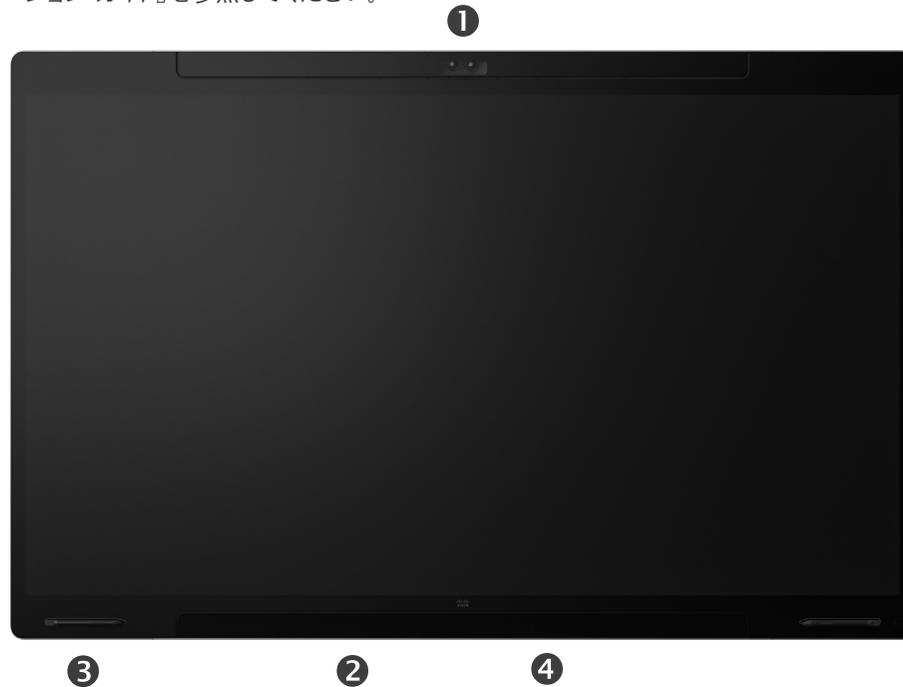
はじめに

Cisco Board Pro

オールインワンデバイスには、4K カメラ、内蔵マイクとスピーカー、および高解像度 4K タッチスクリーンが搭載されています。フロアスタンド、ホイールベース、壁取り付けの 3 つの取り付けオプションがあります。

Board Pro には 55 インチと 75 インチの 2 つの画面サイズがあります。

Board Pro コネクタパネルの詳細情報については、『*アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。



- ①カメラ
- ②スピーカー (画面下部)
- ③マグネット式ペンホルダー (両側)
- ④コネクタパネル (後部)

概要

Cisco Board

オールインワンデバイスには、4K カメラ、内蔵マイクとスピーカー、および高解像度 4K タッチスクリーンが搭載されています。フロアスタンド、ウォールスタンド、壁取り付けの 3 つの取り付けオプションがあります。第 2 世代のボードでは、ハードウェア プラットフォームにいくつかのマイナーな最適化が施されています。

Board には 3 種類の画面サイズがあります。

- Board 55 および 55S、55" LED スクリーン付き
- Board 70 および 70S、70" LED スクリーン付き



- ①カメラ
- ②マイクアレイ
- ③ホームボタン
- ④コネクタパネル (後部)
- ⑤スピーカー
- ⑥マグネット式ペンホルダー

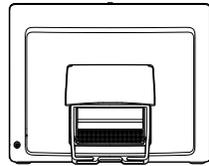
概要

Cisco Desk Pro

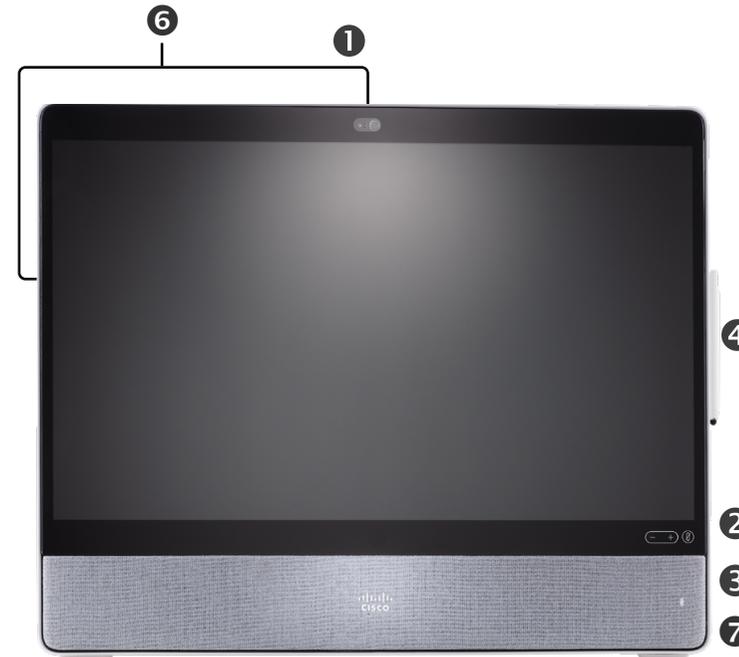
PC モニターとして使用します。 HDMI または USB-C ケーブルを使用してコンピュータを接続します(以下を参照)。USB-C ケーブルを使用している場合、同じケーブルを使用してラップトップを充電することができます。

Desk Pro で PC 画面を表示するには、[PC入力 (PC Input)] をタップします。

着信通話は、着信拒否が有効になっていない限り、PC モードであるかビデオモードであるかに関係なく表示されます。[“着信拒否を有効にする” on page 27](#)を参照してください。



- ① USB ポート
- ② サービスポート
- ③ HDMI 出力: 画面
- ④ ネットワーク拡張。コンピュータネットワークをこの端子に接続すると、コンピュータと Desk Pro とで共通の接続を共有できます。
- ⑤ ネットワーク
- ⑥ HDMI 入力: コンテンツ共有
- ⑦ USB-C コネクタ
- ⑧ 電源
- ⑨ 初期設定リセット ピンホール



- ① プライバシーシャッター付きカメラ
- ② スピーカー音量調節およびマイクのミュートボタン
- ③ ユニットの右側にあるUSB およびミニジャックソケット
- ④ スタイラス
- ⑤ スピーカー
- ⑥ マイク (6 か所)
- ⑦ デバイスの背面の電源オン/オフ

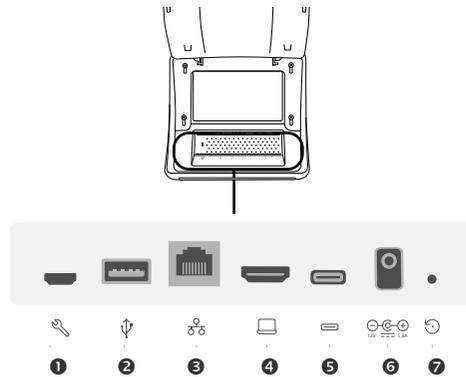
はじめに

Cisco Desk

PC モニターとして使用します。HDMI または USB-C ケーブルを使用してコンピュータを接続します(以下を参照)。

Webex Desk で PC 画面を表示するには、[PC入力 (PC Input)] をタップします。

着信通話は、着信拒否が有効になっていない限り、PC モードであるかビデオモードであるかに関係なく表示されます。[“着信拒否を有効にする” on page 27](#)を参照してください。



- 1 サービスサポート
- 2 USB ポート: ヘッドセット用
- 3 ネットワーク
- 4 HDMI 入力: コンテンツ共有
- 5 USB-C コネクタ
- 6 電源
- 7 工場出荷時の状態へのリセットピンホール



- 1 プライバシーシャッター付きカメラ
- 2 スピーカー音量コントロールおよびマイクのミュートボタン
- 3 スピーカー
- 4 マイク (4 か所)
- 5 デバイスの背面の電源オン/オフ

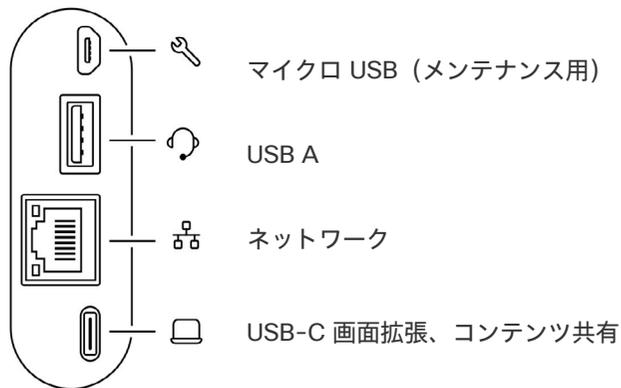
はじめに

Cisco Desk Mini

PC モニターとして使用します。USB-C ケーブルを使用してコンピュータを接続します。画面を拡張し、ラップトップ上で実行されているアプリで Desk Mini のスピーカー、マイク、カメラ、およびタッチコントロールを使用します。

着信通話は、着信拒否が有効になっていない限り、PC モードであるかビデオモードであるかに関係なく表示されます。[“着信拒否を有効にする” on page 27](#)を参照してください。

デバイスの背面にコネクタを覆っている磁気パネルがあります。それを外して元に戻すことができます。Desk Mini のコネクタは以下の通りです。



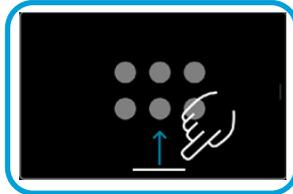
- ① プライバシーシャッター付きカメラ
- ② スピーカー音量調節およびマイクのミュートボタン
- ③ 画面の背面の電源オン/オフ
- ④ スピーカー
- ⑤ マイク

はじめに

RoomOS 11: 基本的なナビゲーション

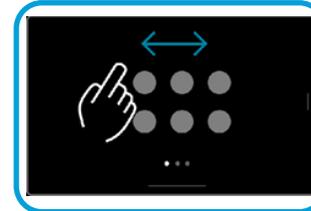
デバイス名をタップすると、そのデバイスの連絡先情報が表示されます。

ホーム画面と開いているアプリにアクセスするには、下の柄で上にスワイプします。これにより、タスクスイッチ機能が開きます。



このボタンをタップするか画面の右側からスワイプして、コントロールパネルを開きます。

ボタンの下の点は、オフスクリーンにさらにボタンがあることを意味します。スワイプしてそれらを表示できます。



タスクスイッチ機能は、通話中かどうかに関わらず、開いているアプリを表示します。ラップトップが接続されている場合は、その画面がタスクスイッチ機能に表示されます。



セッションで作成したホワイトボードは、タスクスイッチ機能で個別のアプリとして開きます。



[ファイル (Files)] ボタンをタップすると、デバイス上に作成したすべてのホワイトボードと、デバイスで使用可能な他のファイルが表示されます。

一部のアプリは、ダイアログとして開きます。ダイアログの上端をタッチしたまま移動します。ダイアログの外側をタップして閉じます。

全画面アプリを閉じるには、画面下部から上にスワイプします。次に、閉じたいアプリのプレビュー画像を上へスワイプします。

RoomOS 11 の概要

Cisco Board と Desk シリーズは、新しい RoomOS 11 オペレーティングシステムをサポートしています。

最も使い慣れた機能は RoomOS 11 でも以前と同じように動作しますが、一部の機能は変更されているか、または異なる場所でアクセスします。新しい機能も利用できます。

このガイドでは、Board と Desk シリーズのデバイスの RoomOS 11 ユーザーインターフェイスで確認できる新機能の一部と既存の機能の変更について説明します。

RoomOS 11 のユーザ エクスペリエンスの詳細については、[Webex ヘルプセンターのこの記事](#)を参照してください。

はじめに

Bluetooth® とのペアリング

Bluetooth 接続を使用して、電話やラップトップなどの外部端末を Cisco デバイスとペアリングすることができます。ヘッドセットをペアリングすることもできます。次のページを参照してください。

Cisco デバイスのスピーカーと、Bluetooth 経由で接続されているデバイスを切り替えることができます。ユーザ インターフェイスのステータスバーでアイコンを選択し、利用可能なデバイスから選択します。

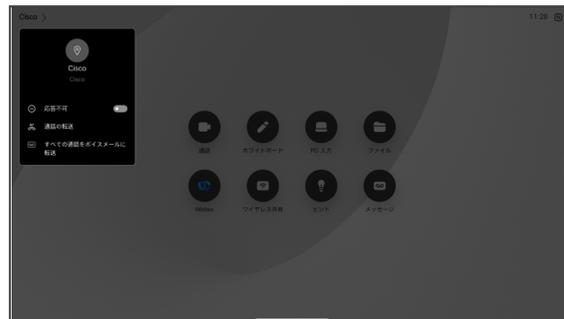
メモ：ヘッドセットと別の Bluetooth デバイスを同時に接続することはできません。

デバイスとのペアリング

メモ：通話中には、Bluetooth を使用して音楽をストリーム転送することはできません。

外部デバイスをペアリングするには、次の手順に従います。

1. コントロールパネルを開き、[デバイスの設定] をタップして [Bluetooth] までスクロールします。Bluetooth が無効になっている場合はオンにします。Bluetooth はデフォルトでは有効になっています。
2. 検出可能をオンに切り替えます。新しいデバイスを接続する場合は、Cisco デバイスを検出可能として設定する必要があります。5 分後に Cisco デバイスが検出可能モードから自動的に外されます。
3. 外部デバイスの Bluetooth 設定に移動し、利用可能なデバイスを探します。
4. デバイスリストから Cisco デバイスを選択すると、ペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
5. ペアリングが成功した場合、デバイスは接続済みとして表示されます。ペアリングが完了しました。



アイコンがここに表示されます。これをタップすると、Cisco デバイスのスピーカーと別のデバイスを切り替えることができます。

- 🔊 スピーカー
- 🎧 アナログヘッドセット
- 🎧 USB ヘッドセット
- 📞 USB ハンドセット
- 📶 Bluetooth デバイス

Bluetooth® の用語マークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、かかる商標の Cisco による使用はライセンスに基づいています。その他の商標と商標名はそれぞれの所有者のもです。

はじめに

ヘッドセット (Desk シリーズ、Board Pro)

Bluetooth ヘッドセット[®]

Cisco Desk シリーズデバイスまたは Board Pro では、Bluetooth ヘッドセットを使用できます。デバイスと直接ペアリングするか、USB Bluetooth ドングルを使用します。お使いのデバイスには複数のヘッドセットをペアリングできますが、一度に使用できるのは 1 つだけです。

サポート対象の Bluetooth プロファイル:

- HFP(ハンズフリー プロファイル)
- A2DP(高度なオーディオ配信プロファイル)
- ヘッドセットは HFP と A2DP の両方をサポートしているか、または HFP のみをサポートしている必要があります。A2DP のみはサポートされていません。

範囲は最大 10m(30フィート)です。通話中にこの範囲の外に出ると、音声デバイスのスピーカーに切り替わります。

ほとんどのヘッドセットには音量コントロールが組み込まれています。通話中にヘッドセットとデバイスの音量が同期されます。通話中でない場合、ヘッドセットとデバイスの音量ボタンは独立して動作します。

サポート対象の Bluetooth 機能:

- 着信通話に応答する
- 着信通話を拒否する
- 電話を切る
- 通話の保留と再開
- 音量アップ、音量ダウン

一部のヘッドセットにはミュート コントロールが備わっています。Cisco ヘッドセットを使用している場合、ヘッドセットとデバイスのミュートコントロールは同期されます。その他のヘッドセットの場合、ミュートコントロールはデバイスのミュートコントロールとは独立して動作します。

Bluetooth ヘッドセットを使用したペアリング

1. ヘッドセットで Bluetooth のペアリングをアクティブにします。確信が持てない場合は、ヘッドセットの取扱説明書を参照してください。
2. コントロールパネルを開き、[デバイスの設定] をタップして [Bluetooth] までスクロールします。Bluetooth が無効になっている場合はオンにします。Bluetooth はデフォルトでは有効になっています。
3. Cisco デバイスが他のデバイスをスキャンします。正常に検出されると、デバイスの一覧に Bluetooth ヘッドセットが表示されます。
4. デバイスを選択すると、ペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
5. ペアリングが成功した場合、Cisco デバイスはヘッドセットを接続済みとして表示します。ペアリングが完了しました。

USB Bluetooth ドングル

ドングルの使用時には、ヘッドセットは USB ヘッドセットとして検出されます。

ドングルを使用する場合は、ヘッドセットの音量とデバイスの音量が同期されないことに注意してください。

Webex ヘルプセンターで [サポートされているヘッドセットとハンドセット](#)の記事をお読みください。

USB ヘッドセット

(Desk Series)

Cisco Desk シリーズは、USB 有線音声デバイス用の標準プロトコルを実装しています。

メーカーは、(HID プロトコルと呼ばれる)標準を独自に実装できます。

したがって、同一の製造元の異なるモデルでも動作が異なる場合があるため、すべてのヘッドセットとハンドセットが動作するとは限りません。

Cisco がテストしたのは有線のヘッドセットまたはドングルを使用するヘッドセットのみです。

この記事で、Webex ヘルプセンターの USB ヘッドセットの詳細と[サポートされているヘッドセット](#)の完全なリストを参照してください。

はじめに

USB カメラとして使用する (Desk Pro, Desk)

Cisco Desk または Desk Pro は、USB カメラとして使用することもできます。

Desk または Desk Pro を Cisco に登録していない場合は、他の USB カメラとして使用することができます。

Desk または Desk Pro を Cisco に登録している場合であっても、USB カメラとして使用できますが、次の点に留意する必要があります。

- Desk または Desk Pro は、ソフトウェアクライアントがカメラの使用を開始したときにケーブルに接続されていないと、着信拒否 (DND) モードになります。
- これにより、専用のコンピュータが常時デバイスに接続されている場合でも、通常の Cisco のコールにはデスクデバイスを使用することができます。

Desk または Desk Pro を USB カメラとして使用するには、コンピュータと Desk または Desk Pro の USB-C ソケットを USB ケーブルで接続します。

このように設定すると、Desk または Desk Pro のマイクとスピーカーにより素晴らしいサウンド体験を実現できます。

この構成を拡張してこの設定に外部モニターを含める場合は、通常の方法でコンピュータをモニターに接続します。

その他のデバイス設定にもすべてアクセスできます。ただし、Cisco に登録されている Desk または Desk Pro では着信拒否を無効にすることはできません。

すでに登録されている場合に USB カメラとして使用

サードパーティのクライアントを使用して電話をかける場合、カメラ、マイク、およびスピーカーは OS/アプリケーションのデフォルトに基づいて選択されます。これらの設定は上書きできます。

プライバシーを維持するため、カメラがアクティブになっているときはいつでもカメラのライトインジケータが点灯します。

他のすべての機能はサードパーティのクライアントによって制御されます。

登録されていない場合に USB カメラとして使用

初めて Cisco のビデオデバイスを起動するときは、セットアップウィザードが表示されます。

このウィザードでは、Cisco サービス(クラウドまたはオンプレミス)への登録方法を指定できます。Desk または Desk Pro では、USB デバイスとしてのみ使用する場合、このウィザードをスキップすることができます。

この方法を示すために、詳細な指示が画面に表示されます。

後で Desk または Desk Pro を Cisco に登録する場合は、コントロールパネルを開いて、[デバイスの設定] をタップします。スクロールして [デバイスアクティベーション (Device activation)] を選択します。

はじめに

自分の資格情報を使用してサインインする

1



Extension Mobility ボタンをタップします。

ボタンが表示できない場合は、ホーム画面のボタンを左にスワイプします。

2



ユーザー名と PIN コードを入力し、次に [ログイン (Login)] をタップします。サインインが成功したことが表示されます。

3



ログアウトするには、[サインアウト] をタップします。ボタンが表示できない場合は、ホーム画面のボタンを左にスワイプします。

Extension Mobility について

会議室やクワイエットルームに配置され、CUCM (Cisco Unified Communications Manager) の元で稼働しているデバイスでは、自分の個人資格情報を使用してデバイスにログインすることができます。

CUCM は、すべての着信通話を特定のデバイスにルーティングします。

エクステンションモビリティからログアウトすると、[受信者 (Recv)] リストはデバイスからクリアされます。

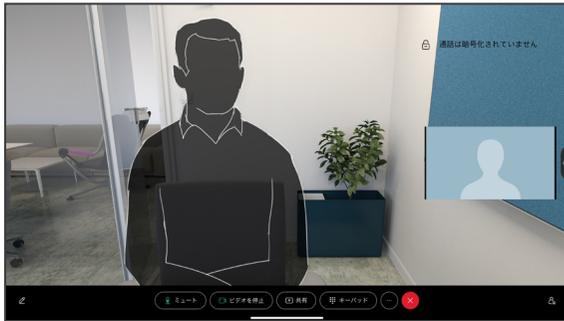


ビデオ通話

RoomOS 11: 通話制御

通話中に画面をタップして通話制御を表示します。

[ミュート/ミュート解除 (Mute/Unmute)], [ボリューム (Volume)], [ビデオの開始/停止 (Start/Stop video)], および [ミーティングを終了 (Leave meeting)] などの標準ボタンに加えて、通話中に必要なその他のコントロールはすべて画面下部の同じ場所にあります。



- レイアウトメニュー。会議のスタイルに合ったレイアウトを選択します。
- セルフビュー。手動カメラ制御とオプションを開いて、セルフビューを変更および移動します。
- 共有。共有オプションを開きます。
- 参加者リスト。現在の通話で参加者のリストを開きます。参加者をタップすると、使用可能なオプション([お気に入り(Favorite)] などの)オプションが表示されます。主催者/共同主催者は、[通話から削除(Remove from call)], [承認(Admit)], およびミュートオプションなどの追加のオプションがあります。
- 詳細。[詳細] をタップすると、ミーティングのロック、マイク設定(コントロールパネルでも使用可能)、参加者の追加、キーボードを開くなどのその他のオプションを表示できます。

通話中にラップトップ画面を表示する

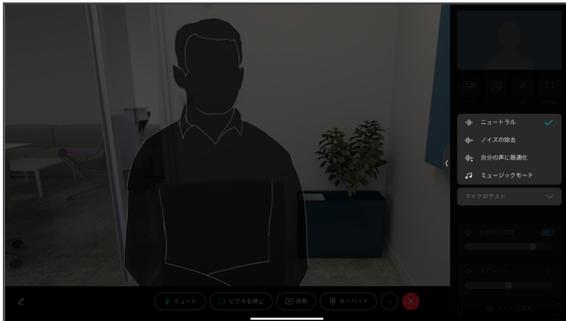
Cisco デバイスをラップトップ画面の拡張として使用するには、ラップトップを HDMI または USB-C ケーブルで接続します。タスクスイッチ機能にラップトップ画面が表示されます。

通話中にラップトップ画面を表示するには、タスクスイッチ機能で選択します。フィルムストリップに通話とプレゼンテーションが表示されます。ラップトップのプレビューを小さくしてコールを大きくするには、ラップトップのプレビューの上にある柄から下にドラッグします。フィルムストリップをタップしてドラッグすると小さな浮動ウィンドウに変わります。これは画面上の指定された領域にドラッグアンドドロップできます。

ビデオ通話

音声設定

通話中かどうかを問わず、マイクのオプションから次の音声設定が使用できます。これらの設定のいずれかをオンにするには、デバイスのコントロールパネルを開き、[マイク (Microphone)] をタップします。オンにするオプションをタップします。いずれも必要ない場合は、[中立] をタップします。



ノイズ除去

ノイズ除去を使用して、通話中に煩雑なノイズを排除することができます。ノイズ除去は、共有スペースやホーム オフィスで特に便利です。

音声の最適化

通話中に背景雑音を除去し、自分の声だけを拾い上げ、近くで話している他の人の音声を抑えます。

マイクのテスト

音声を録音して再生し、Cisco デバイスが正しく音声を拾い上げていることを確認して、ノイズ除去設定の有効性をテストします。

音楽モード

ミュージックモードを使用すると、通話中に、音楽のダイナミックレンジを流すことができます。これにより、音楽のニュアンスを聞くのが重要な設定で、より良いエクスペリエンスが作成されます。

音楽モードは、リモートミュージックのレッスンや楽器のテスト、およびすべての範囲の音楽を聞くことが重要な場合に便利です。デバイスは依然として、エコーキャンセレーションと環境背景雑音のリダクション機能を使用して、パフォーマンスを損なうことなく外部装置を使用する必要を回避しています。

ミュージックモードを使用していない場合は、デバイスによって雑音フィルタリングされ、音声のレベルの違いが減少します。これにより、ミーティングの設定に対応し、気を散らすノイズを減らすことができます。デバイスを使用して録音された音楽を再生する場合にも、追加のフィルタリングが適切に機能します。

音楽モードを使用するには、まずデバイスで音楽モードを有効にします。コントロールパネルを開き、[デバイスの設定] をタップします。スクロールし、[音楽モード (Music mode)] を選択します。オンまたはオフに切り替えます。

注: 音楽モードとノイズ除去は同時に使用できません。

着信音と音量

着信音を変更し、着信音の音量を調整するには、コントロールパネルを開いて、[デバイスの設定] をタップします。[着信音と音量 (Ringtone and volume)] にスクロールします。リストから着信音を選択し、スライダを使用して音のレベルを設定します。

ビデオ通話

連絡先リストから発信する

1



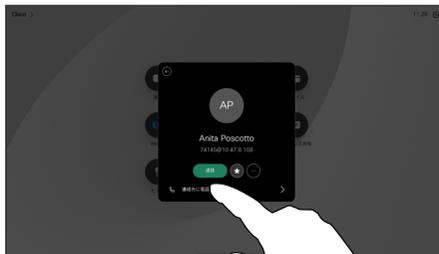
通話ボタンをタップします。

2



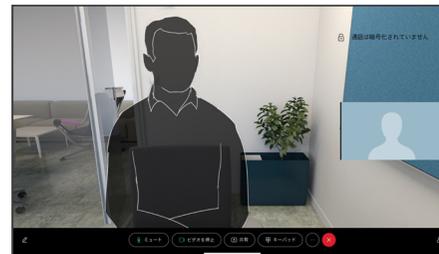
[お気に入り],[最近の履歴],または [ディレクトリ(Directory)] をタップし、下にスクロールして連絡先を探します。

3



その連絡先をタップしてから、緑色の [通話] ボタンをタップします。

4



通話が発信されます。通話を終了するには、赤色の [通話を終了する] ボタンをタップします。

連絡先リストについて

連絡先リストは、次の 3 つの部分から構成されています。

お気に入り。これらの連絡先はユーザによって配置されています。頻繁に通話する連絡先や、迅速にアクセスする必要がある連絡先を登録します。

ディレクトリは通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされた社内ディレクトリです。

発信履歴は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

- 名前、番号、または IP アドレスを入力すると、デバイスはすべてのリストを検索します。
- [お気に入り] にエンTRIESを追加して、発信する前に編集したり、コールレートを変更したりすることができます。

[最近の履歴] からエンTRIESを削除できるのは、Web インターフェイスからのみです。

ビデオ通話

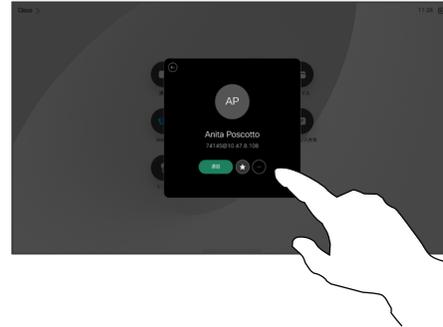
発信する前に連絡先を編集する

1



通話ボタンをタップします。編集する連絡先を見つけ、その連絡先をタップします。

2



連絡先カードの [詳細(...)] ボタンをタップします。

3



[編集とダイヤル (Edit and Dial)] をタップします。

4



キーボードを使って編集し、緑色の [通話] ボタンをタップして発信します。

エン트리編集について

発信する前に、連絡先リストのエントリを編集する必要がある場合があります。たとえば、プレフィックスやサフィックスを追加したり、エントリを変更したりする必要がある場合があります。

ビデオ通話

名前、番号、またはアドレスを使用して発信する

1



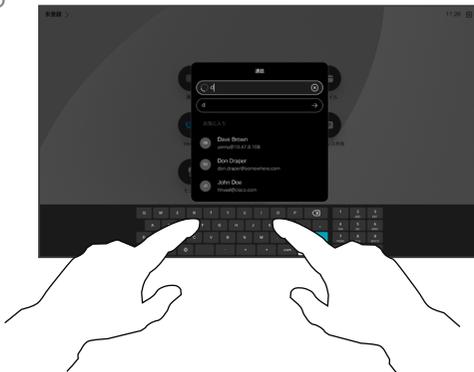
[通話 (Call)] ボタンをタップします。

2



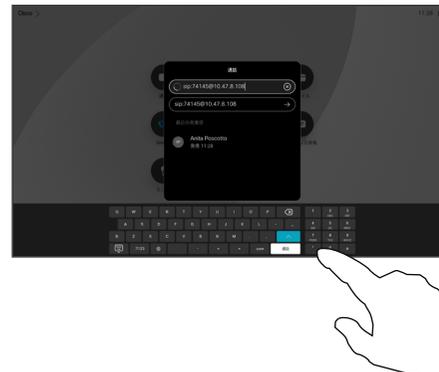
[検索(Search)] フィールドをタップします。
これにより、キーボードが開きます。

3



名前、番号、またはアドレスを入力します。
入力したとおりに、一致するものや候補が表示されます。正確に一致するものがリストに表示されたら、それをタップします。表示されない場合は入力を続けます。

4



連絡先を見つけて選択したら、緑色の
[通話] ボタンをタップして通話します。

発信について

連絡先にリストされていない相手に電話するには、画面に表示される仮想キーボードを使用して名前、アドレス、または番号を入力します。

これまでの発信先と着信元はすべて [最近の履歴] リストに表示されるので、リスト内のいずれかのエンタリを [お気に入り] に追加することができます。これについては、「連絡先」で説明しています。

場合によっては、内線にアクセス、または暗証番号を提供するために、コール中に番号を入力する必要がある場合があります。この場合は、通話制御内の [キーパッド] ボタンをタップして、キーボードを開きます。

[最近の履歴] をクリアできるのは、Web インターフェイスからのみであることに注意してください。

ビデオ通話 着信コール

1



着信通話に応答するか拒否するかに応じてタップします。

2



ビデオ インフラストラクチャで許可されている場合は、複数の着信を受信できます。既存の通話に追加するか、あるいは拒否するかを選択できます。

着信があった場合

ユーザからコールがあれば、そのコールを受け入れる、拒否する、あるいは無視するかのいずれかになります。

- 通話を拒否すると、通話中の情報が発信者に送信されます。
- コールを無視すると、発信者はこのことを、不在として認識します (コールに応答しなかった場合)。
- ビデオインフラストラクチャを使用すると、複数の着信を受信できます。貴社のビデオサポートチームにご照会ください。

別のコール中にコールを受信する

追加: デバイスが CUCM 下でアドホック電話会議を実行している場合は、参加者を追加することができます。

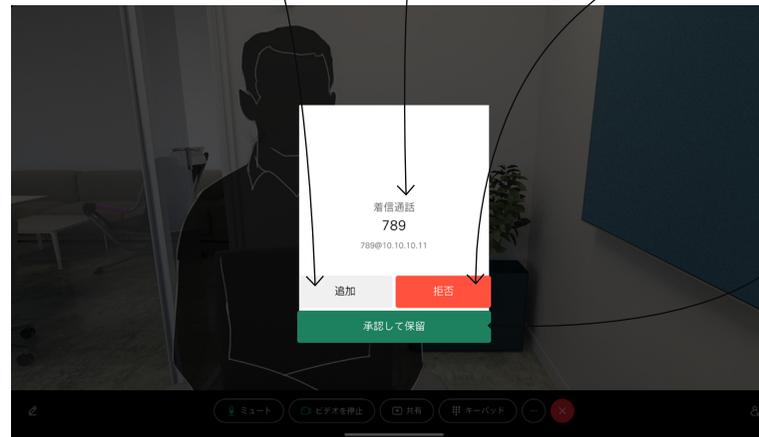
新しい着信の ID。

着信通話を拒否し、続けている通話を続行します。

承認して保留: 発信に応答し、現在の通話を保留にします。

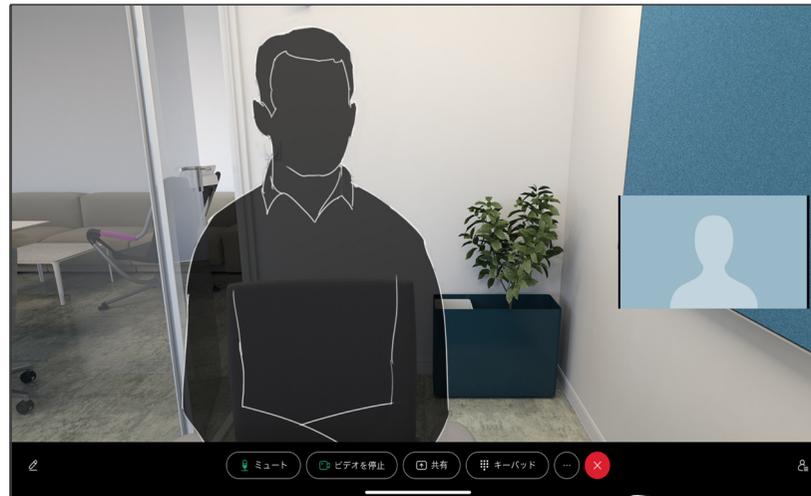
オプションについて

すでに通話中の場合は、特定の状況下で別の着信通話を受け入れることができます。



ビデオ通話

通話から自身を切断する



通話を切断するには、[通話を終了する]をタップします。

通話の切断について

通話中に [通話を終了する] をタップすると、通話が切断されます。2 者だけがコールした場合は、このコールは終了します。

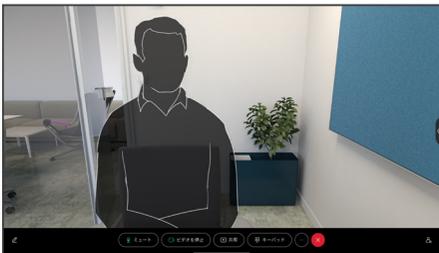
複数の参加者がいる会議電話では、[通話の終了 (End call)] をタップすると、ユーザーが通常の参加者である場合にのみ、参加が終了します。

ただし、自分がこの電話会議のホストである場合、[通話の終了 (End call)] をタップすると、電話会議の種類によっては電話会議全体が終了することがあります。

ビデオ通話

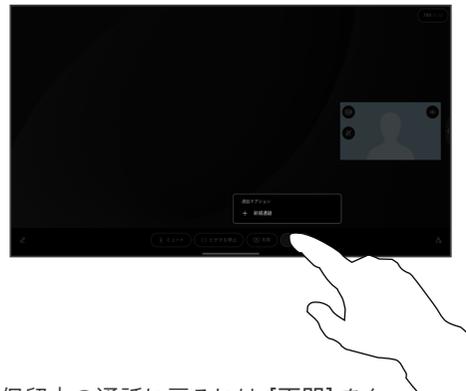
コールを保留にし、保留中のコールを再開する

1



通話中に 保留をタップします。最初に [詳細] をタップする必要がある場合もあります。

2



保留中の通話に戻るには、[再開] をタップします。

保留について

通話の保留は通常、通話を別の人に転送する際に行う最初のステップです。ビデオの送信を停止する場合も、ミュートの代わりに保留を使用することができます。

ビデオ通話

継続中のコールを転送する

1



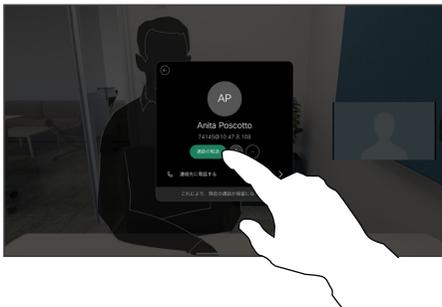
[詳細] をタップし、[転送] をタップします。
これにより、現在の通話が保留になります。

2



連絡先を検索します。

3



緑色の [通話を転送する (Transfer call)] ボタンをタップします。相手と話して転送が行われたことを確認します。転送先では保留中のままになります。

4



[転送完了] ボタンをタップします。

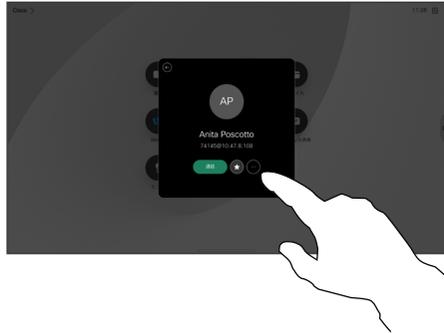
転送について

対応中の通話を別のの人に転送することができます。通話の転送は任意に行うことができますが、転送する前に転送先の人と話をする必要があります。

ビデオ通話

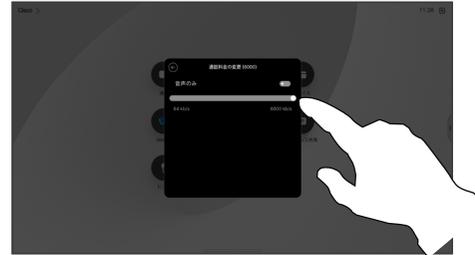
コールレート(帯域)を変更する

1



[通話] ボタンをタップして、コールレートを変更するエントリを特定します。特定したエントリをタップしてから、[詳細] をタップします。

2



[帯域の変更 (Change call rate)] をタップします。 スライダーを移動します。

3



[戻る] ボタンをタップして [通話] をタップします。

コールレートについて

「帯域」とは、通話に割り当てられている帯域幅を示すために使われる用語です。これは kbps(キロビット/秒)で測定されます。

コールレートが高くなるほど、品質は向上しますが、帯域幅の消費が大きくなります。

デバイスには、デフォルトのコールレートが付いています。これは通常ビデオ サポート チームが設定します。通常の条件下では、必要に応じて、デバイスによりコールレートが自動調整されます。これは、デバイスや接続のサポートより高いレートで他のユーザを呼び出す場合に、ビデオ通話を回避するために実行されます。

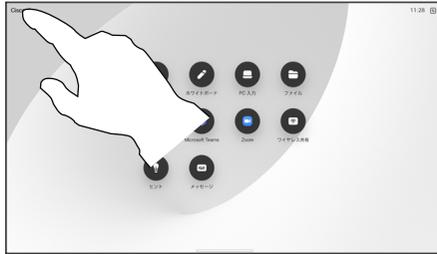
何らかの理由によって、自動帯域設定に失敗した場合、最終手段として手動で調整することも可能です。

コールレートは通話中の変更はできませんが、左に示されているように、通話を発信する直前に変更できます。

ビデオ通話

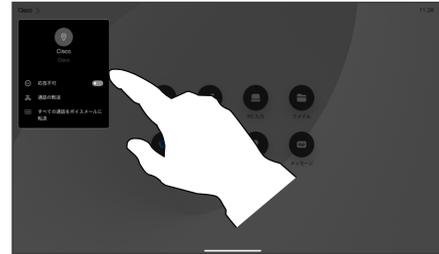
着信拒否を有効にする

1



ホーム画面の左上隅のデバイス名をタップします。

2



サイレント (DND) に切り替えます。この設定を無効にするには、もう一度タップします。

応答不可について

着信コールに応答しないようにデバイスを設定することができます。他の人にも発信することができます。

ビデオサポートチームがこの機能のタイムアウトを設定していて、その後デバイスが着信通話に応答して通常どおり応答するようになっている可能性があります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

ビデオ サポート チームによって、この機能へのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。

ビデオ通話

すべてのコールの自動転送

1



ホーム画面の左上隅のデバイス名をタップします。

2



[転送コール(Forward calls)] エントリを選択します。連絡先を探して選択します。次に、緑色の [転送(Forward)] ボタンをタップします。

転送コールを停止するには、同じメニューを開いて [転送の停止] を選択します。

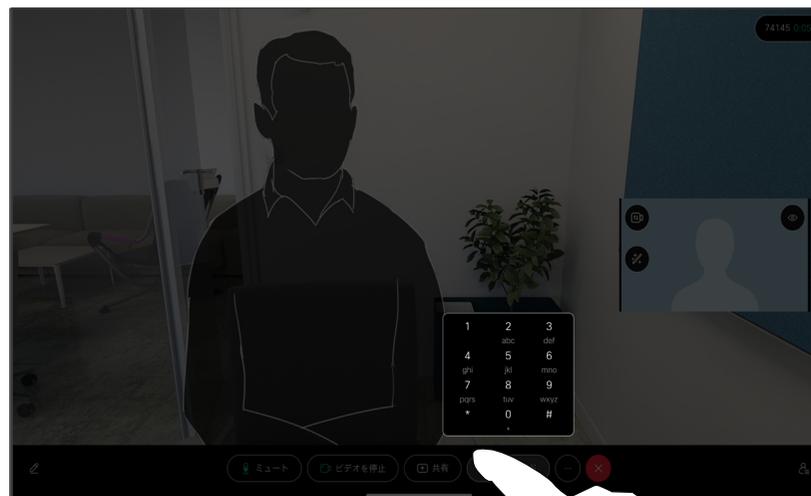
通話の転送について

デバイスで有効にした場合、ボイスメールまたは別の受信者のいずれかを選択して、すべての通話を転送できます。

管理者は、表示されている一連のメニューとオプションへのアクセスを無効にできます。

ビデオ通話

通話中にキーパッドを開く



通話中に画面をタップして通話制御を開きます。
次に、[キーパッド] ボタンをタップします。

通話中にキーパッドを使用する

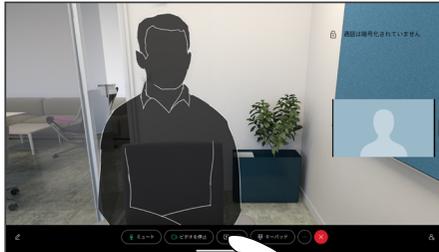
通話中に、内線番号へアクセスしたり、(PIN コードの使用などにより)その他の場所へアクセスしたりするために番号の入力を求めるメッセージが表示されることがあります。

番号を入力するには、タッチ画面のキーパッドを開きます。

ビデオ通話

継続中の通話に参加者を追加する

1



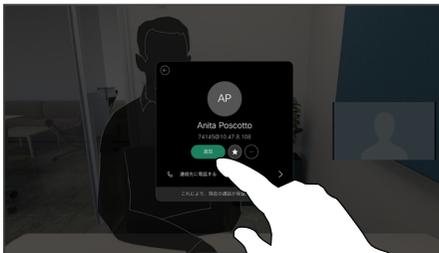
通話中に画面をタップして通話制御にアクセスし、[追加] をタップします。

2



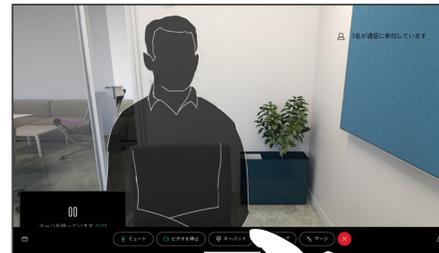
次に電話する相手を探して選択します。

3



連絡先カードの [追加] をタップします。

4



通話制御で [マージ] をタップして、新しい通話を既存の通話に追加します。電話会議が確立しました。

この手順は、ビデオインフラストラクチャで可能な人数まで繰り返すことができます。

ビデオ会議について

ネットワークには、複数の参加者とビデオ会議を開始する機能が装備されている場合があります。

デバイスでサポートされる参加者の最大数は、デバイスの設定とビデオのインフラストラクチャによって異なります。これを確認するには、ビデオ サポート チームへ問い合わせてください。

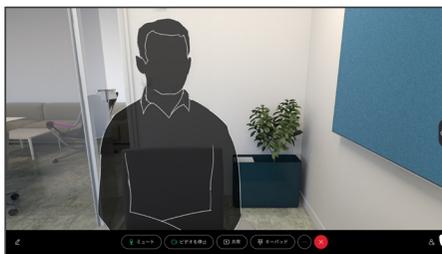
ビデオ会議を開始するには、参加者に 1 人ずつ電話します。

会議を開始したユーザは、会議全体を終了することができます。他の参加者が会議から切断できるのは自分だけです。

ビデオ通話

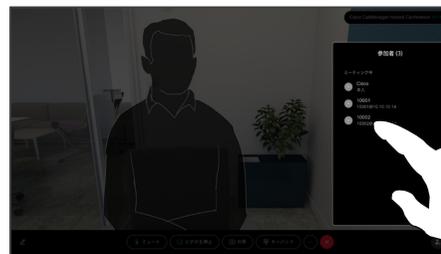
電話会議から参加者を切断する

1



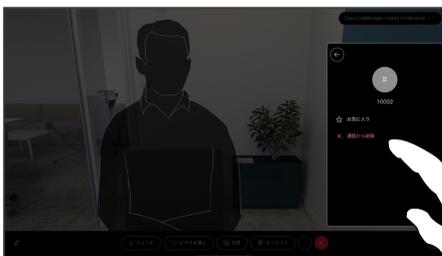
通話中に画面をタップして通話制御を取得します。次に、[参加者 (Participants)] ボタンをタップします。

2



ミーティングからドロップする参加者をタップします。

3



コールから削除をタップします。

ビデオ会議について

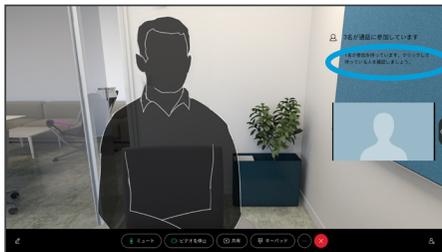
デバイスからビデオ会議を実施できるかどうかは、お使いのデバイスで使用できる場合とできない場合があります。

会議から参加者を切断できるのは会議のホストのみです。

ビデオ通話

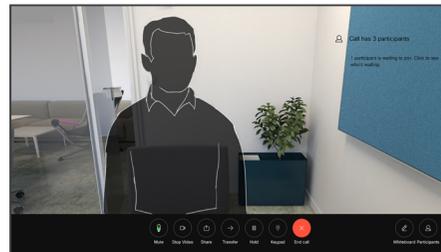
参加者をミーティングに許可する

1



ロビーで待機している人がいると、通話中に通知されます。

2



画面をタップして通話制御を取得します。次に、[参加者 (Participants)] ボタンをタップします。

3



[許可] をタップして待機中の参加者をミーティングに参加させます。

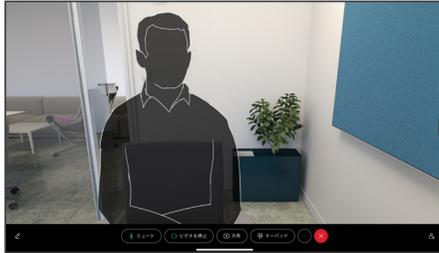
参加者の許可について

ロックされている CMS ミーティングでは、参加者を参加者一覧からミーティングに参加させることができます。

ビデオ通話

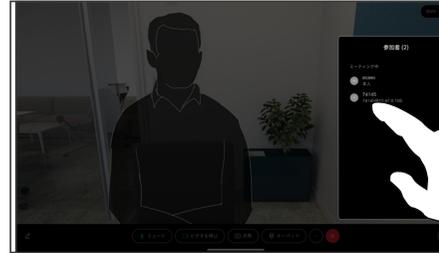
ミーティングでスピーカーを固定する

1



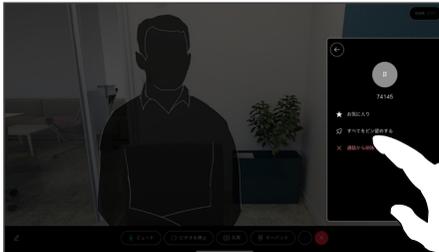
通話中に画面をタップして通話制御を取得します。次に、[参加者 (Participants)] ボタンをタップします。

2



固定する参加者をタップします。

3



すべてをピン留めするをタップします。

スピーカーの固定について

CMS ミーティングでは、ミーティングの参加者全員にとって重要であるとしてミーティングの参加者を固定することができます。このようにすると、参加者または会議室にアクティブなスピーカーでなくても、全画面に表示されます。

スピーカーを固定すると、そのスピーカーが固定されていることを示す通知が画面に表示されます。同様に、固定を解除すると、それらの固定が解除されたというメッセージが表示されます。

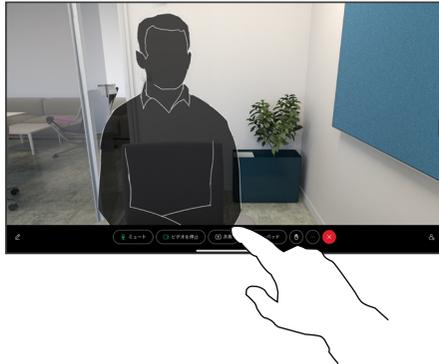
音声のみの参加者を固定する場合、この設定はレイアウトには反映されません。

デフォルトでは、ホストのみがすべてを固定できますが、ミーティングの開催者は会議の設定でこれを変更することができます。

スピーカーは、CMS ミーティングでのみミーティング全体に対して固定できます。

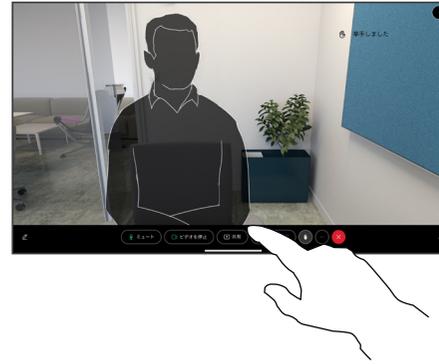
ミーティングで挙手する

1



ミーティング中に、画面をタップして通話制御を開きます。その後、[挙手 (Raise hand)] ボタンをタップします。

2



手を下げる場合は [手を下げる (Lower hand)] ボタンをタップします。この場合、名前の横にある参加者リストからアイコンも削除されます。

挙手について

[挙手 (Raise Hand)] ボタンを使用して、会話を中断することなく、質問やコメントがあることを他の人に知らせることができます。

ミーティングのホストと他のユーザの両方に、誰かが挙手したという通知が画面に表示されます。フルネームを含む通知が最初の挙手について表示されます。

その後、挙手アイコンに、手を挙げ上げた回数が表示されます。

参加者リストを開き、誰が手を挙げたのかを確認できます。

挙手は 2 名以上の参加者がいる CMS ミーティングで利用できます。

ビデオ通話

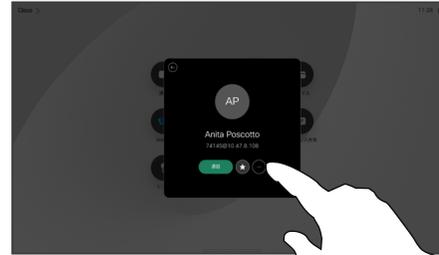
最近の通話の通話詳細を検索する

1



[通話 (Call)] をタップし、次に [最近の履歴 (Recents)] リストのエントリを選択します。

2



[詳細] をタップします。

3



次の画面で、[通話詳細] をタップします。

4



リストを下方方向にスクロールして詳細を確認します。[戻る] 矢印をタップして、詳細画面から離れます。

通話詳細について

最近の通話のトラブルシューティングを行うには、[最近の通話] リストに通話詳細を見つけることができます。



Cisco プロキシミ ティ設定

Cisco Proximity の超音波信号

Cisco デバイスは、近接機能の一部として超音波を発しています。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接通信信号が出力される 20 kHz あたりの周波数帯で検出される 75 dB の音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2 (英語) をご覧ください。

120 dB 未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。

個人使用の Cisco デバイスの場合、超音波の音圧レベルは 70 dB 未満で 20 cm 以上の距離にあります。スピーカーから 20 cm 以上です。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音についてミーティングスペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズ レベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。

したがって、人間が近接通信の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬などの動物は、可聴周波数範囲が広いいため、近接通信の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なりません。20 kHz で犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。

Cisco は、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。レベルが制限されているため、犬に信号が聞こえることが明らかであるとしても、犬にとってわずらわしいものではないと信じられています。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンドノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることとなります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物が影響を受けたというレポートはありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用していると主張しています。Cisco は、犬撃退デバイスの設計について見識はありませんが、このようなデバイスの仕様を調べると、そのレベルが 100 dB 以上であることが多いことがわかります。

Cisco のビデオコーデックをサードパーティ製のスピーカーシステムと組み合わせるソリューションについては、Cisco は超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

Cisco Proximity について

Cisco Proximity 機能を使用すると、コンピュータからワイヤレスで Cisco デバイスのコンテンツを共有できます。また、自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使用して、ビデオデバイスのコールを制御することもできます。

次の条件に従ってください。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリ(無料)をダウンロードする必要があります。

Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> (英語) にアクセスしてください。

ビデオサポートチームが、使用可能な機能のすべてを有効にしている場合、一部を有効にしている場合、または使用可能な機能すべてを無効にしている場合があります。

Proximity では、超音波を使用してユーザーを接続します(詳細は左を参照)。コンピュータ、電話、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

ドアを閉め切った場合は、Proximity は会議室の外では機能しません。Proximity を使用するには、ビデオエンドポイントの近くにデバイスを接続する必要があります。

プライバシーを確保する必要がある場合は、会議室のドアを閉め、盗聴されないようにしてください。

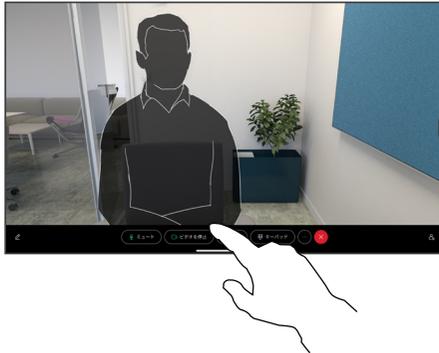


コンテンツ共有

コンテンツ共有

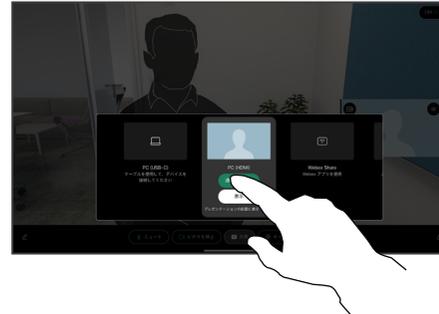
ケーブルでコンテンツを共有する

1



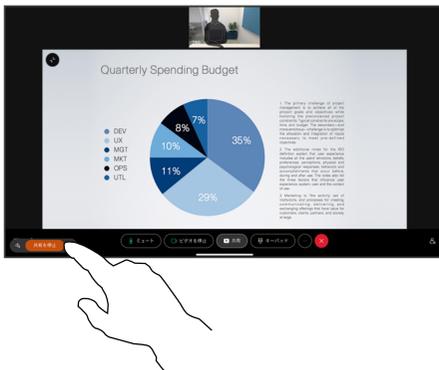
ケーブルでソースを接続し、スイッチがオンになっていることを確認します。画面をタップして呼制御を取得し、[共有 (Share)] ボタンをタップします。

2



ソースを選択します。[表示] をタップしてプレビューを表示します。まだ誰もコンピュータの画面を表示できません。準備ができたなら [共有] をタップします。または、[通話での共有] をタップして、すぐに共有します。

3



コンテンツの共有を停止するには、[共有を停止 (Stop sharing)] をタップします。

コンテンツ共有について

USB-C または HDMI ケーブルで Cisco デバイスに PC を接続することで、Cisco デバイス上のコンテンツとホワイトボードを共有します。または、Webex アプリ、Cisco Proximity、Miracast®、または AirPlay を使ってワイヤレスで共有することもできます。

ケーブルを使用して通話外で共有するには、送信元を接続して、スイッチがオンに設定されている必要があります。デバイスにコンピュータ画面が表示されます。共有を停止するには、デバイス画面の下部から上にスワイプして別の画面を選択するか、ソースを切断します。

カメラがオンの場合、会議室でプレゼンを行うように、コンテンツの前に自分を表示できます。ラップトップを HDMI または USB-C ケーブルで接続します。コール制御で >[共有 (Share)] ボタンをタップします。[プレゼンテーションの前面に表示] をオンに切り替えて、[通話での共有] をタップします。画面上で画像を任意の場所にドラッグ&ドロップし、画像をつまんでズームしてサイズを変更します。

Miracast® が有効な場合、クライアントを使用せずにコンテンツをラップトップから Cisco デバイスにワイヤレスで共有できます。通話中のときでも通話中でないときでもこの機能は動作します。通話を共有するには、まずコールを開始します。

AirPlay が有効になっている場合は、iPhone、iPad、または Mac をワイヤレスに接続して、音声またはビデオコンテンツを共有、コラボレーション、再生できます。

コンテンツ共有

Webex アプリでコンテンツを共有する

Windows および Mac ラップトップの場合

1. Webex アプリでデバイス名をクリックし、[デバイスで共有 (Share on device)] をクリックします。
2. 共有する画面またはアプリを選択します。
3. 画面の上部に共有している内容のプレビューを表示するため、画面上部のコントロールバーに移動し、下矢印をクリックします。
4. 設定が完了したら、[共有の停止 (Stop Sharing)] をクリックします。

Webex アプリについて

超音波を有効にした後、同じ会議室に入るとすぐにデバイスに自動的に接続できます。これらのデバイスを使用すると、同じ会議室内のユーザーとコンテンツをワイヤレスで共有できます。

モバイル上の Webex アプリとコンテンツを共有する場合は、クラウドのペアリングが必要であることを注意してください。詳細については、Webex ヘルプセンターの [この記事](#) をお読みください。

コンテンツ共有

Miracast® でコンテンツを共有する

Windows ラップトップの場合

1. ラップトップで **Windows+K** を押すか、アクションセンターのアイコンをクリックしてから **[接続 (Connect)]** をクリックします。Windows は Miracast レシーバーをスキャンします。
2. キャスト先の Board または Desk Series デバイスをクリックします。PIN がデバイスの画面に表示されます。
3. ラップトップに PIN を入力し、**[接続 (Connect)]** をクリックします。
 - 通話中は自動共有ポップアップが表示され、共有が開始される前に 5 秒間のカウントダウンが表示されます。カウントダウン中は共有をキャンセルできます。
 - 通話外では、共有がすぐに開始されます。
4. 共有が開始します。

Android スマートフォンの場合

1. Samsung デバイスで [設定(Settings)] メニューを開いて、**[スマートビュー (Smart View)]** または **[Dex]** を選択します。他の Android デバイスでは名前が異なることに注意してください。
2. キャスト先の Board または Desk Series デバイスをクリックします。PIN がデバイスの画面に表示されます。
3. Android デバイスで PIN を入力します。
4. **[接続 (Connect)]** をタップします。
 - 通話中は自動共有ポップアップが表示され、共有が開始される前に 5 秒間のカウントダウンが表示されます。カウントダウン中は共有をキャンセルできます。
 - 通話外では、共有がすぐに開始されます。
5. 共有が開始します。

Miracast について

Miracast は Wi-Fi Direct を使用してラップトップから Cisco デバイスへの直接ネットワーク接続を確立し、コンテンツをワイヤレスで共有できるようにします。通話中のときでも通話中でないときでもこの機能は動作します。通話を共有するには、まずコールを開始します。アクティブな共有中に電話をかけた受けたりすると、Miracast セッションが切断されます。詳細については、Webex ヘルプセンターの [記事](#) をお読みください。

コンテンツ共有

Airplay® でコンテンツを共有する

iPhone、iPad、Mac の場合

1. iPhone、iPad、または Mac 上で [コントロールセンター] を開きます。[スクリーンミラーリング (Screen Mirroring)] を選択します。
2. キャスト先の Board* または Desk Series デバイスを選択します。パスコードがデバイスの画面に表示されます。
3. Apple デバイスでパスコードを入力し、[OK] を選択します。
4. デバイスで自動共有が有効になっていて、通話中の場合、あなたがキャンセルしない限り、通話の共有が 5 秒以内に開始されるという通知が画面に表示されます。その後、通話中の共有が開始されます。自動共有が有効になっていない場合、コンテンツは画面のプレビューでのみ表示されます。通話中にそれを共有するには、[共有 (Share)] ボタンを再度タップします。

ホームスクリーンの下部から上にスワイプするとタスクスイッチ機能が開き、別のアプリに移動できます。これで共有が終了します。

*Board Pro または S シリーズ。

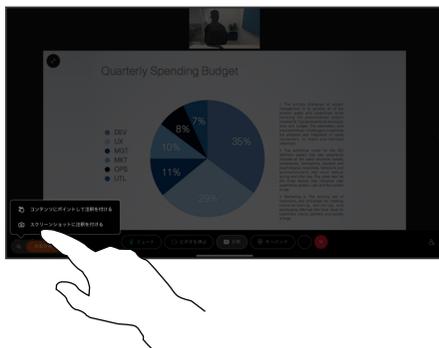
Airplay について

Cisco デバイスは AirPlay をサポートし、簡単に使い慣れた共有エクスペリエンスを提供します。iPhone、iPad、または Mac をワイヤレスに接続することで、画面の共有、コラボレーション、音声やビデオコンテンツの再生が簡単にできます。詳細については、Webex ヘルプセンターの [この記事](#) をお読みください。

コンテンツ共有

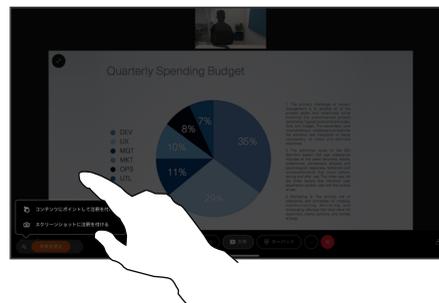
通話中に画面のレイアウトを変更する

1



通話中に画面をタップして通話制御を取得し、[レイアウト] ボタンをタップします。

2



開いたメニューから優先レイアウトを選択します。

プレゼンテーションの共有時

利用できるレイアウトは、デバイスと画面の数によって異なりますが、一般的なオプションは次のとおりです。

重ねて表示：プレゼンタおよび最大 6 人の参加者がコンテンツの上に重ねて表示されます。

フローティング：プレゼンタがコンテンツの上にフローティングします。

並べて表示：プレゼンタとコンテンツが画面を共有します。

フォーカス：コンテンツが画面全体に表示されます。

通話中に使用できるレイアウト

利用できるレイアウトは、デバイスと画面の数によって異なりますが、一般的なオプションは次のとおりです。

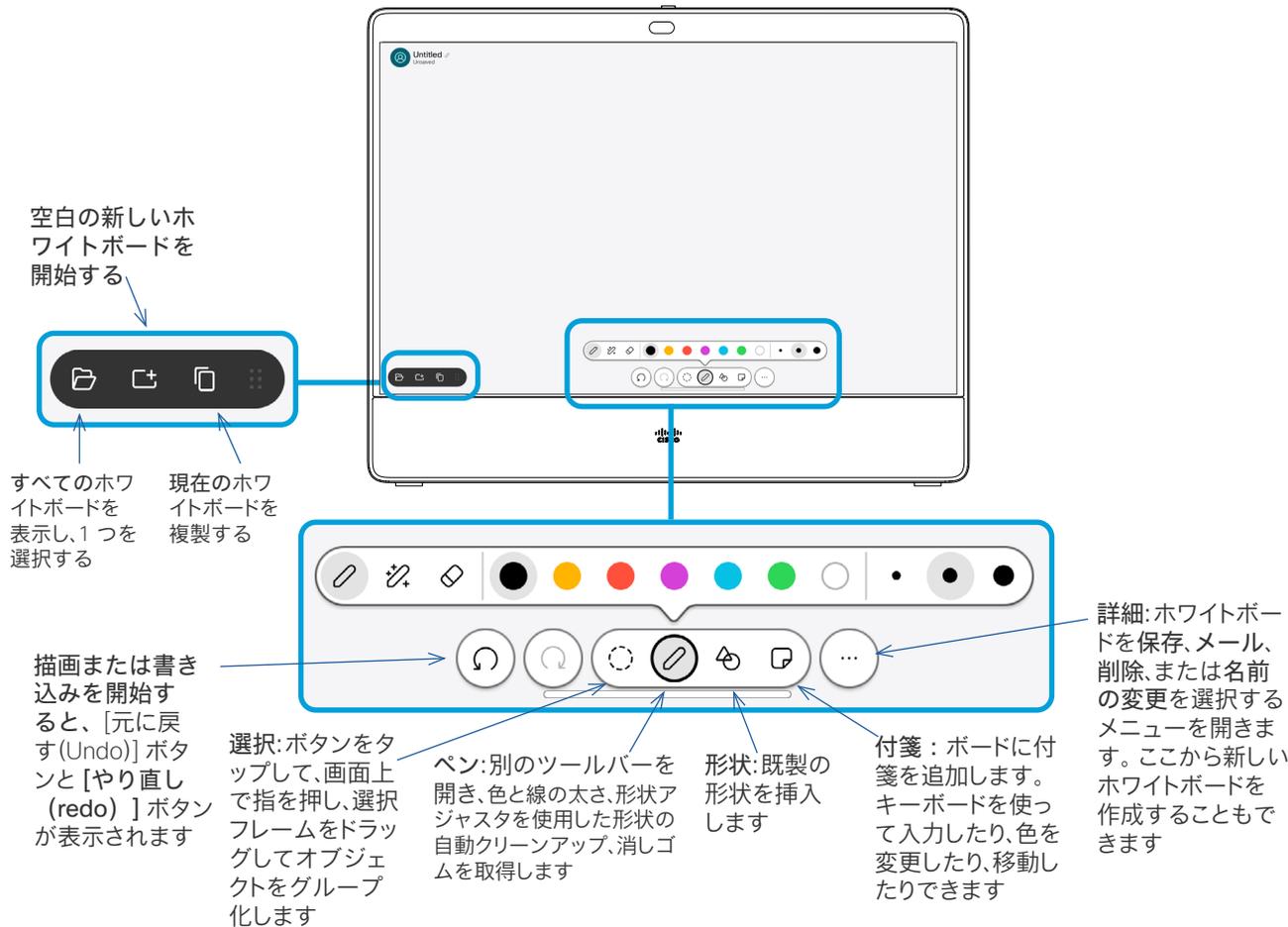
グリッド：最大 5 人の参加者のグリッドが表示されます。グリッドは単一画面のデフォルトのレイアウトです。

重ねて表示：参加者の最大 6 つのサムネイルがアクティブな発言者の上に表示されます。

拡大表示：発言者が画面の左上に表示され、他の参加者は下部と右側に配置されます。

フォーカス：発言者が画面全体を占めます。

コンテンツ共有 ホワイトボード機能



ホワイトボードについて

Board または Desk シリーズデバイスのデジタルホワイトボードを使用できます。

ホワイトボードを開くには、[ホワイトボード (Whiteboard)] ボタンを押して、スタイラスまたは指を使って文字や描画を行います。

ホワイトボードページのサイズは必要に応じて大きくなります。2本の指を使用してホワイトボードとピンチをドラッグすると、ズームできます。

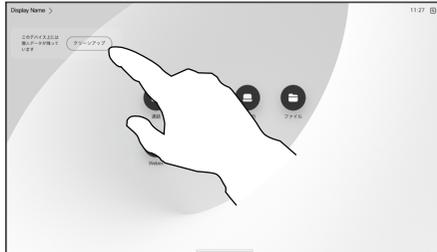
ホワイトボードの図面を保存するには、そのホワイトボードの図面を電子メールで送信します。デバイスがこれを行うように設定されている場合、[詳細 (More)] ボタンをタップして、[メールとして送信 (Send as email)] を選択します。ホワイトボードは PDF フォーマットで送信されます。

画面の下部から上にスワイプすると、タスクスイッチ機能が開きます。開いているアプリケーション、現在開いているその他のホワイトボード、およびホーム画面が表示され、これらを切り替えることができます。

すべてのホワイトボードを削除するには、コントロールパネルを開いて [セッションの終了] をタップします。

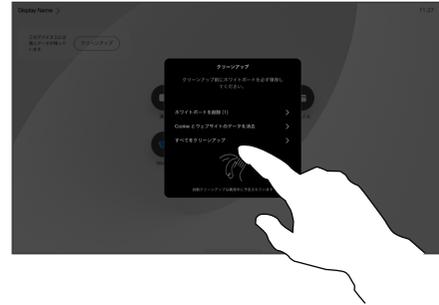
セッションを終了してデバイスをクリアする

1



操作が終わったら、コントロールパネルを開き、[セッションの終了 (End session)] をタップします。ホーム画面で [掃除 (Clean up)] をタップすることもできます。この通知は、アプリケーションを終了して個人データを残した場合に表示されます。

2



すべてのホワイトボード、すべてのウェブサイトデータ、またはその両方をクリアするかどうかを決定します。ウェブサイトデータを削除するオプションは、ウェブエンジンが有効な場合にのみ表示されます。

セッションの概要

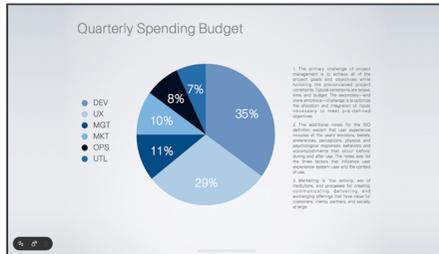
セッション中は、ホワイトボード、注釈、および Web アクティビティがお使いのデバイスに保存されます。休憩を取ったり、アクティビティを切り替えることができます。その後、ファイルに戻り、作業を続けることができます。

デバイスが共有モードの場合、次のユーザのためにすべてのホワイトボードとブラウジングデータをクリアして、いつでもセッションを終了できます。

デフォルトでは、ホワイトボードと Web データは毎日午前 0 時に自動的に削除されます。自動クリーンアップが無効になっていたり、別の時間に実行されるように設定されていたりした場合は、システム管理者に確認してください。

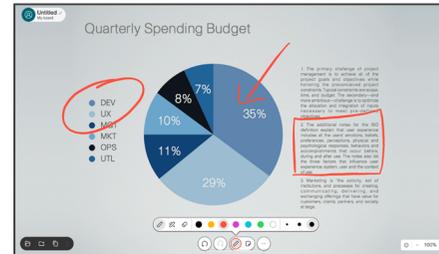
コンテンツ共有 共有コンテンツに注釈を付ける

1



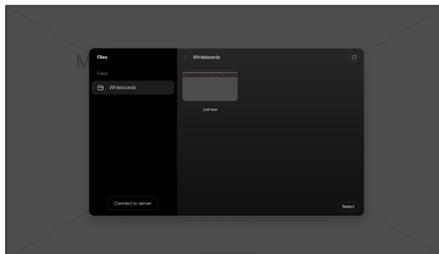
外線通話では、注釈を付ける画像が表示されたパソコン画面をデバイスに共有します。
[注釈 (Annotation)] ボタンをタップします。

2



画面下部のツールを使用して注釈を作成します。プレゼンテーションを再開するか、ソースを完全に切断することができます。

3



注釈付き画像はホワイトボードとして保存されます。上にスワイプすると、現在のすべてのホワイトボードが表示されます。別のホワイトボードを追加したり、既存のホワイトボードを削除したりすることができます。ホワイトボードは、セッションが終了すると削除されます。

注釈について

コール以外でプレゼンテーションに注釈を付けることができます。

画像に注釈を付けるように選択すると、その画像のスナップショットが生成され、変更はプレゼンテーションに影響を与えません。

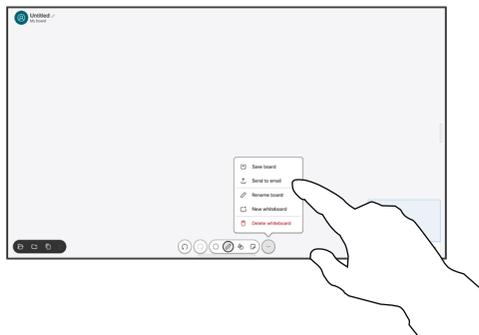
終了すると、注釈付き画像がホワイトボードとなります。プライバシーの確保のために、ホワイトボードはデバイスから削除されます。

注釈を保持するには、デバイスが設定されている場合は、電子メールで送信します。

注釈は PDF として送信されます。

注釈または描画をメールで送信する

1



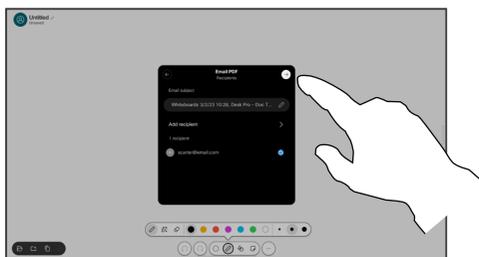
ホワイトボードで、[詳細 (More)] をタップし、[電子メールで送信 (Send to Email)] をタップします。

2



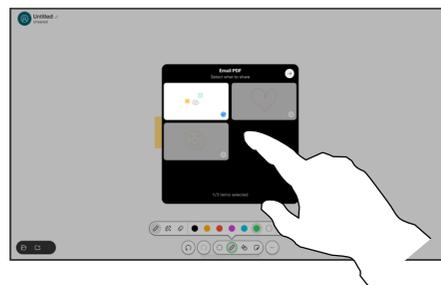
受信者の名前かアドレスを入力します。人を選択し、右矢印をタップします。

3



必要な場合さらに受信者を追加したら、白い矢印をタップします。

4



送信するホワイトボードを選択します。もう一度白い矢印をタップすると、ホワイトボードが送信されます。

注釈について

デバイスが設定されている場合、1つ以上のホワイトボードを電子メールで受信者に添付して送信できます。

ホワイトボードは PDF フォーマットで送信されます。

共有デバイス上では、ホワイトボードセッションが終了した後、ホワイトボードを維持するにはこれが唯一の方法です。

有線タッチのリダイレクト

Cisco デバイス画面からラップトップを操作できます。Windows 10 ラップトップを HDMI ケーブルと USB-C ケーブルを使用して Desk デバイスに接続している場合、有線タッチリダイレクトが機能します。この機能は、ドラッグアンドドロップ、描画プログラム、マップを使用した作業に適しています。

通話のリダイレクト機能は、ローカルで共有している場合または通話中に共有している場合に使用できます。

この機能は Windows 10 でテストおよび検証されます。基本機能は別の OS でも機能する必要があります。

(Board シリーズ)メモ：この機能は S シリーズ Board および Board Pro でのみ利用できます。

制限事項:

- タッチリダイレクトを使用しているときは、共有している画面上でコメントを使用できません。
- タッチリダイレクトを使用しているときは、Cisco デバイスの音量コントロールを使用できません。ラップトップの音量コントロールを使用します。
- (Board シリーズ)デバイスに Touch 10 または Room Navigator コントローラが接続されている場合は、USB-C ケーブルが Board に接続されているときにセルフビューを動かすことはできません。

ブラウザのドラッグアンドドロップを有効にする

ブラウザでドラッグアンドドロップ操作のためにタッチリダイレクトを使用するには、ブラウザ上でこれを有効にする必要があります。

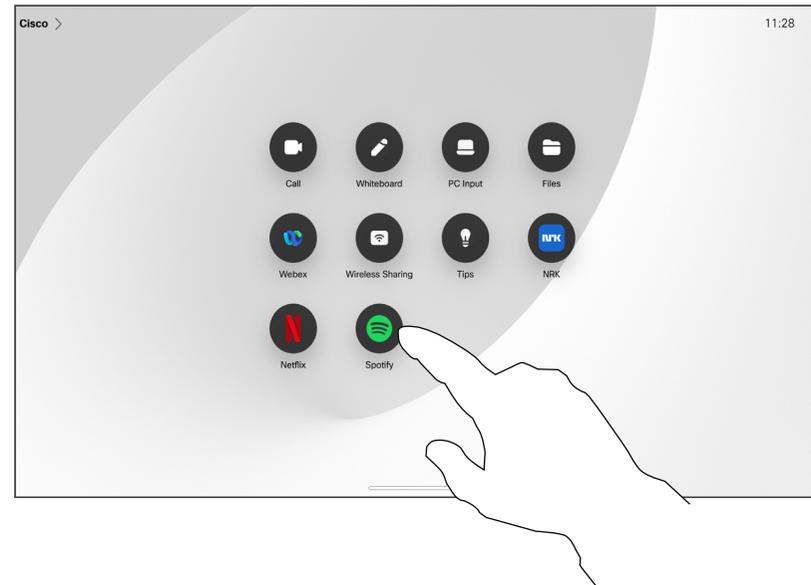
- Chrome: `chrome://flags/#touch-events`に移動し、有効に設定します。
- Firefox: `設定に移動してDom.w3c_touch_events_legacy_apis.enabled = true`を設定します。
- Edge: `フラグに移動します。タッチイベントを有効にする = 常にオンに設定します。`

Windows 10 ラップトップでタッチリダイレクトを使用する

1. タスクバーの日付と時刻の横にあるアクションセンターを選択し、タブレットモードをオンにして、ラップトップをタブレットモードに切り替えます。
2. HDMI ケーブルと USB-C ケーブルを使用して、ラップトップを Cisco デバイスに接続します。USB-C-USB-C ケーブルまたは USB-C-USB-A ケーブルのいずれかを使用することができます。メモ:より長いケーブルには USB-C-USB-A ケーブルがサポートされています。
3. デバイス画面で [共有(Share)] をタップして、[タッチリダイレクト (Touch Redirect)] ボタンをクリックします。

タッチリダイレクトを使用している間にデバイス上の他のアクティビティに切り替える場合は、画面の下部から上にスワイプして別の画面またはアプリを開きます。

コンテンツ共有 Web アプリ



Web アプリについて

Web アプリとは、デバイスのホーム画面からアクセスできるウェブページまたはアプリケーションを指します。ローカルで、または通話中に Web アプリを共有したり、Web アプリで作業したりすることができます。

Web アプリは全画面で起動し、15 分間使用されないと時間切れとなります。Web アプリはインタラクティブな場合があります。

通話中に Web アプリを開くと、その Web アプリは自動的に共有されます。通話中に Web アプリのプレビューを表示することはできません。

音声を再生するが、音量調節ができない Web アプリを提示する場合は、参加者と共有している音声を調整できません。キャッシュ、Cookie、ローカルストレージなどのデータは、セッションが終了すると自動的に消去されます。

Web アプリは、デバイスの設定メニューから直接追加、削除、および編集できます。

コントロールパネルを開き、[デバイスの設定] をタップします。[Web アプリの管理] までスクロールしてタップします。Web アプリを追加し、すでに存在するアプリを編集または削除できます。

UI 内線エディタで構成された Web アプリは、[外部管理 Web アプリ(Externally Managed Web Apps)] の下の Web アプリリストに表示されますが、デバイスから編集または削除することはできません。



スケジュールされたミーティング

スケジュールされたミーティング

スケジュールされたミーティングに参加する



ミーティングへの参加

ビデオデバイスは、ビデオミーティングをスケジュールできる管理システムに接続されている場合があります。スケジュールされたミーティングは左図のように表示されます。[デバイス]画面にスケジュールされたミーティングが表示されると、デバイスはスタンバイからウェイクアップします。

ミーティングに参加するには **参加** をタップします。

ミーティングは開始時間の 5 分前に表示されます。ミーティングがすでに開始されている場合でも、いつでもミーティングに参加できます。

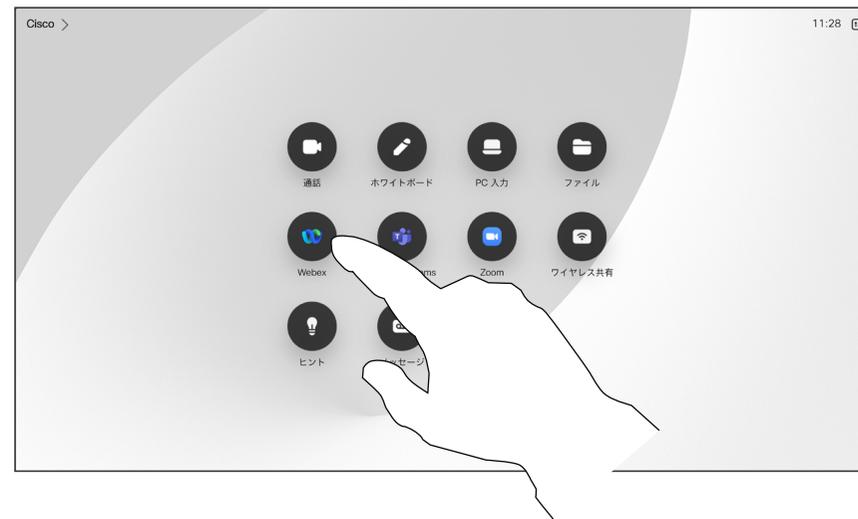
ミーティングが始まると、ミーティングへの参加を促すプロンプトが表示されます。[参加] をタップします。

スケジュールされたミーティング

Webex ミーティングに参加する

ミーティングへの参加

デバイスは、Webex に接続されている管理システムに接続されている場合があります。



[Webex] をタップします。招待で受け取ったミーティング番号の入力を求めるメッセージが表示されます。参加をタップしてミーティングに参加します。

スケジュールされたミーティング サードパーティのミーティングに参加する

ミーティングへの参加

デバイスは、Zoom または Microsoft Teams に接続された管理システムに接続されている可能性があります。



[Microsoft Teams]、または[Zoom] をタップします。
招待メールで受け取ったビデオ ID またはミーティング ID とパスワードを入力するように指示されます。
参加をタップしてミーティングに参加します。

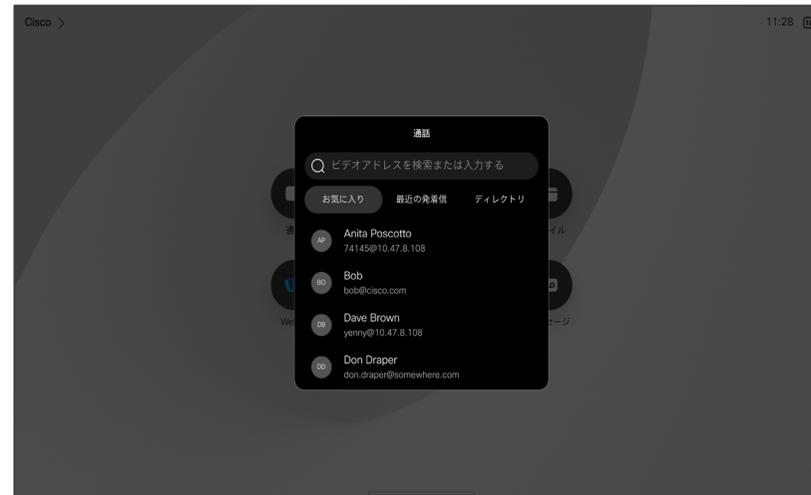


連絡先



連絡先

お気に入り、発着信履歴、ディレクトリ



連絡先リストについて

[通話] ボタンをタップして連絡先リストを開きます。連絡先リストは、次の3つの部分から構成されています。

お気に入り。これらの連絡先はユーザーによって配置されています。これらのエントリは、頻繁にコールするか、または迅速にアクセスする必要がある場合に使用します。

ディレクトリは通常、ビデオサポートチームによってデバイスにインストールされた企業ディレクトリです。

最近は、発信、受信、不在着信のリストです。

発着信履歴からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

連絡先

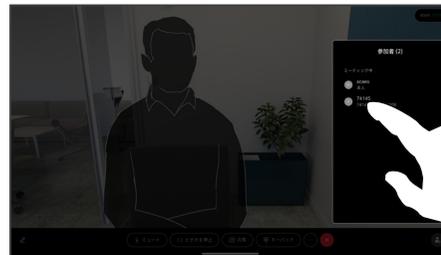
通話中に誰かをお気に入りに追加する

1



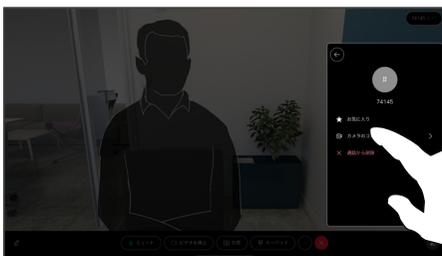
通話中に画面をタップして通話制御を取得し、[参加者] ボタンをタップします。

2



参加者をタップして [お気に入り (Favorites)] に追加します。

3



お気に入りをタップします。メニュー以外の場所をタップしてメニューを閉じます。同じ方法で、[お気に入り (Favorites)] からユーザーを削除します。

お気に入りについて

お気に入りは、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

お気に入りは、発着信履歴 または ディレクトリリストから選択するか、手動で入力します。

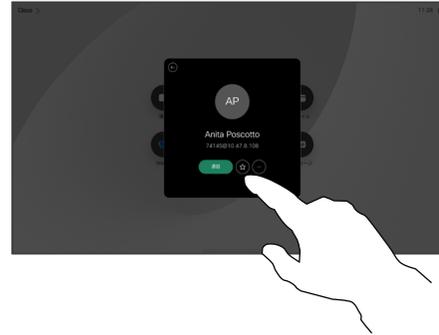
連絡先

非通話時に誰かをお気に入りに追加する

1



2



通話中ではない場合は、[通話] をタップして連絡先リストを開きます。[最近の履歴 (Recents)] または [ディレクトリ (Directory)] をタップし、[お気に入り (Favorites)] に追加するエントリを検索し、見つけたエントリをタップして連絡先カードを開きます。

連絡先カードのスターボタンをタップすると、その人が直ちにお気に入りに設定されます。または、[詳細] ボタンをタップします。

3



[お気に入り] をオンまたはオフに切り替えます。メニュー以外の場所をタップして終了します。

4



[お気に入り (Favorites)] からエントリを削除するには、連絡先リストの [お気に入り (Favorites)] に移動して、この手順を繰り返します。

お気に入りについて

お気に入りは、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り] は、[発着信履歴] または [ディレクトリ] リストから選択するか、手動で入力します。

連絡先

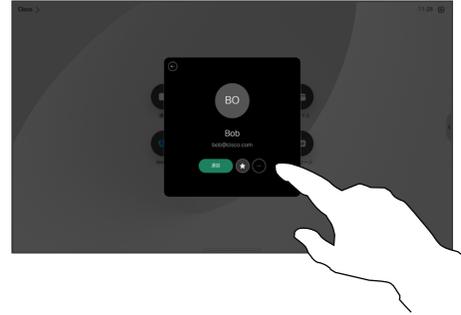
お気に入りを編集する

1



[通話] をタップして、連絡先リストを開きます。
[お気に入り] をタップします。

2



編集する人物をタップします。詳細をタップします。

3



エントリを編集し、キーボードで [保存] をタップして終了します。それ以外の場合は、連絡先カードの [戻る] 矢印をタップするか、カード以外の場所をタップして終了します。

お気に入りについて

お気に入りの連絡先はいつでも更新
できます。

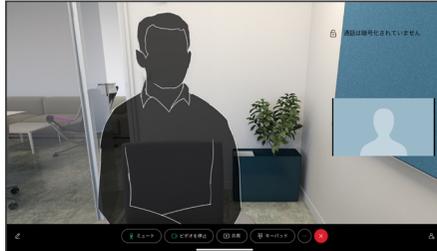


カメラ制御

カメラ制御

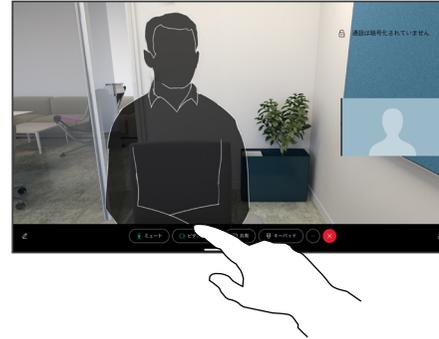
カメラのオンとオフを切り替える

1



通話中に画面をタップして通話制御を取得します。

2



[ビデオの停止 (Stop Video)] ボタンをタップします。[ビデオの開始 (Start Video)] タップしてビデオの発信をオンに戻します。

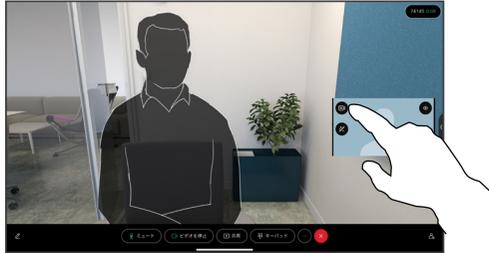
ビデオオフについて

一部のデバイスでは、カメラを機械的にブロックして、カメラからのビデオ送信を制御することができます。

カメラ制御

通話中または通話中でないときにセルフビューにアクセスして調整する

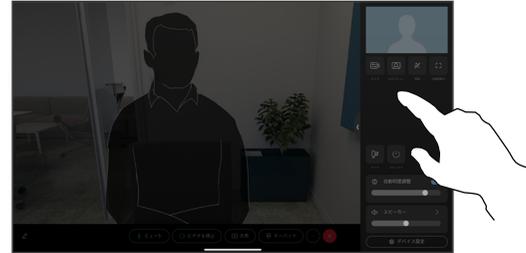
1



カメラの電源が入っていることを確認してください。通話中に画面をタップすると、その通話の上にセルフビューが開きます。その後、セルフビューの右上隅のボタンをタップし、[非表示]、[通話中に表示]、または [常に表示する] に表示設定を変更します。

通話中、または通話を終了した状態でコントロールパネルを開き、[セルフビュー] ボタンをタップすると、同じ設定を行うことができます。

2



非表示を選択しても、セルフビューはコントロールパネルに表示され、そこで同じオプションを利用できます。

セルフビューについて

セルフビューには、自分デバイスから他の人に見えるものが表示されます。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

通話中でも通話中でないときでも、画面の周りにセルフビューを表示、調整、移動できます。

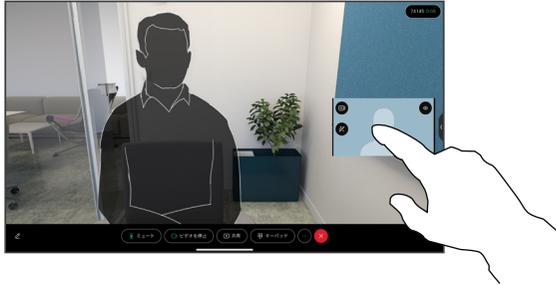
任意のタイミングでセルフビューを確認するには、コントロールパネルを開きます。カメラが開いている/オンの場合は、その場所にセルフビューが表示され、必要に応じて全画面に展開できます。全画面を終了するには、コントロールパネルを開き、もう一度 [全画面] をタップします。

セルフビューを非表示、通話中に表示、または常に表示に設定するには、コントロールパネルの [セルフビュー] ボタンをタップします。

カメラ制御

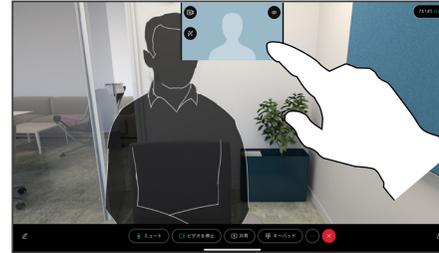
セルフビューを移動する

1



セルフビュー画像をタップして長押しします。画面の新しい位置にドラッグアンドドロップします。

2



指を離すと、新しい場所に画像が表示されます。

セルフビューについて

セルフビューには、デバイスから他の人に見えるものが表示されます。これを使用すると、他の参加者に見せるべき適切な画面が見えていることを確認できます。

通話中でも通話中でないときでも、画面の周りにセルフビューを表示、調整、移動できます。

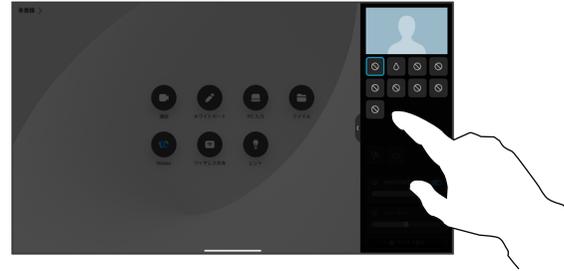
仮想背景 (Desk シリーズ)

1



コントロールパネルを開いて [背景 (Background)] ボタンをタップするか、セルフビューの画像をタップしてから [背景 (Background)] ボタンをタップします。

2



背景のオプションが開き、選択することができます。操作が終わったら、コントロールパネルまたはセルフビュー以外の場所をタップします。

背景について

ビデオの背景を使用すると、ビデオミーティングで他のユーザに表示される画像の背景を変更したり、ぼかすことができます。これにより、画像の焦点を絞ったり、オフィスにいる煩雑な背景を隠すことができます。

背景のオプション:

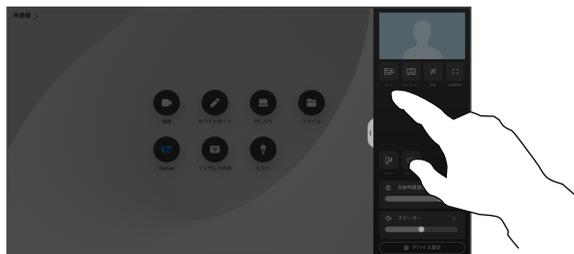
- バックグラウンドのぼかし
- 背景としてのコンピュータ画面共有(デスクデバイスに接続されている場合)
- 標準背景画像
- カスタム背景画像(カスタム画像が管理者によってアップロードされている場合)

メモ: 背景のぼかしは完全には適用されない場合があります。また、ビデオミーティングの他のユーザーにも機密情報が表示される可能性があります。

カメラ制御

カメラを手動で制御する

1



通話中、または通話を終了した状態で、コントロールパネルを開いて [カメラ] ボタンをタップします。または、セルフビューの画像をタップし、[カメラ] ボタンをタップします。

カメラモードで [手動 (Manual)] を選択します。

2



コントロールを使用して、カメラのパン、チルト、ズームを行います。画面の他の場所をタップして終了します。

手動カメラ制御について

Desk デバイスは、自動的に [最適表示 (Best view)] でユーザーをフレーム構成します。デバイスの状況によっては、フレームを調整する必要がある場合があります。

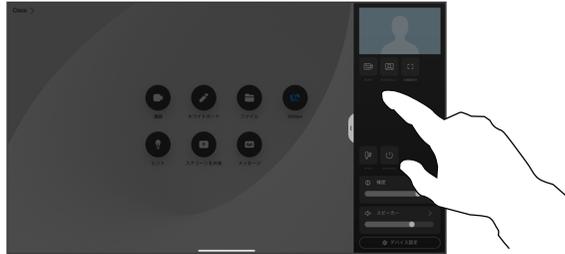
通話中でも通話中でないときでも、カメラのズーム、パン、チルトを手動で制御できます。

(Board シリーズ)カメラを手動で調整する場合、気に入ったビューがあれば保存して再度使用できます。定義済みのズームおよびカメラ方向でカスタムビューを作成して保存するには、Board に接続されたタッチコントローラを使用する必要があります。Board にタッチコントローラが接続されている場合は、『RoomOS 11.20 Room Series ユーザーガイド』を参照してください。

カメラ制御

自動カメラモードを選択する (Board シリーズ)

1



通話中、または通話を終了した状態で、コントロールパネルを開いて [カメラ] ボタンをタップします。カメラモードで [自動 (Auto)] を選択します。

2



カメラモードを選択します。コントロールパネルの外をタップして終了します。

カメラモードについて

自動カメラモードを選択すると、ミーティング中に手でカメラを操作することなく、デバイスとミーティングを最適に表示できます。通話中かどうかに関係なく、カメラモードを変更できます。

使用可能な自動モードは、管理者が設定した設定によって異なります。

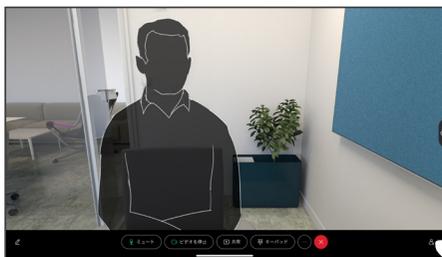
- **グループ。** カメラは、調整してすべての人を表示します。
- **フレーム。** 参加者の周りの不要なスペースを切り取り、最大 4 つのフレームで、人物がより近くに同じ大きさで同じ目線に見えるよう構成します。
- **スピーカー。** カメラは、話している人物に追従します。スピーカートラッキングが動作する最大距離は 7.5 m です。

お使いの Board に Touch 10 または Room Navigator を接続している場合は、いずれかを使用してカメラの表示を制御することもできます。

カメラ制御

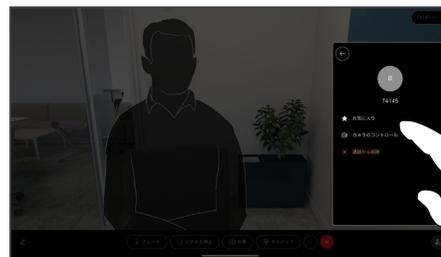
遠端カメラ制御

1



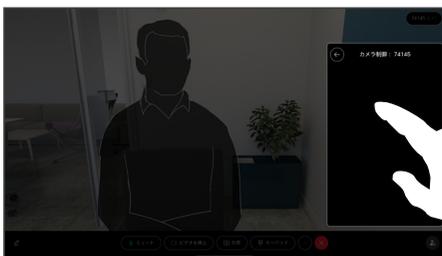
通話中に画面をタップして通話制御を取得します。次に、[参加者 (Participants)] ボタンをタップします。

2



カメラを制御する参加者をタップし、[カメラ制御] をタップします。

3



リモートカメラのチルト、パン、ズームをカメラ制御ボタンで調整します。操作が終わったら、カメラ制御以外の場所をタップします。

遠端カメラについて

ビデオコール中に、他のデバイスにリモート制御可能なカメラが 1 台以上ある場合、自分のデバイスからそれらのカメラを制御できます。

遠端デバイスによって、カメラが発言者に追従するスピーカーモードを有効にしているか、または最適表示を使用している場合、カメラをリモートで制御できません。

カメラプリセットにリモートアクセスすることはできません。



設定

設定

コントロールパネルとデバイス設定

[設定] メニューで、デバイスの情報を確認したり、設定をいくつか変更したりすることができます。

- 概要 - ビデオアドレス情報、IP および MAC アドレス、SIP プロキシ、および現在のソフトウェアのバージョンを提供する
- 問題と診断
- Bluetooth を有効/無効にする
- 着信音を選択してボリュームを設定する
- 音楽モードをオン/オフにする。
- 電話サービスを選択する
- 有線またはワイヤレス(Wi-Fi) 接続から選択する
- デバイスを再起動する
- 工場出荷時リセットを実行して、工場出荷時のデフォルト設定に戻します。これを行うと、現在の登録が失われます。工場出荷時の状態へのリセットを元に戻すことはできません



設定へのアクセス

コントロールパネルを開くには、画面の右側からスワイプするか、またはホーム画面の右上隅にあるボタンをタップします。カメラが開いている場合は、上部のパネルに自分が見えます。コントロールパネルに次の情報が表示されます。

- カメラ制御
- 自画面
- (Desk シリーズ)背景
- マイクのオプション
- Standby
- 画面の明るさ
- デバイスの音量/スピーカー
- デバイス設定へのアクセス
- セッションの終了(ホワイトボードまたは注釈を作成している場合)

[設定] メニューを開くには、コントロールパネルを開きます。次に、[デバイス設定] をタップします。メニューが開き、スクロールできます。通話中の場合、メニューが通話の上にダイアログとして開きます。

使用可能な設定は、管理者によって制限されている場合があります。



北中南米本部
Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

アジア太平洋本部
Cisco Systems (USA) Pte. Ltd.
シンガポール

ヨーロッパ本部
Cisco Systems International BV Amsterdam,
オランダ

Cisco は世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は Cisco のウェブサイト(www.cisco.com/go/offices)をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Cisco の商標の一覧については、www.cisco.com/jp/go/trademarks をご覧ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用は、Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(11.10R)